

私たちは、「勉強っておもしろい！」を目指して、子どもたちが主体的に学習に取り組む態度の育成を目指します。そのために、以下のような授業展開を行います。

- ① 学習のめあてを子どもが作る→教科書や先生が示した学習のめあてだけで授業を始めるのではなく、子どもが毎時間、自分で自分の学習のめあてを考えることができるようにする。
- ② 学習過程を子どもが作る→指導書や先生が示した学習予定だけで学習を進めるのではなく、子どもが自分で学習過程を考えることができるようにする。
- ③ 分かるまで(できるようになるまで)何度でも自分の学習を振り返り、もっと良い学習の仕方はないかを自分で考え、学習過程を修正しながら繰り返し課題に取り組むことができるようにする。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策(平成30年度)

第6学年

立川市立第一小学校

	児童の実態 (○いいところ ●課題)	指導方法	具体的な授業改善策
国語	○漢字の練習を意欲的に取り組む児童が多い。 ○筆者の主張と根拠を読み取り、自分の考えをまとめることができる。	・漢字学習を毎日行い、家庭学習で毎日漢字練習を継続させた。	
	●音読や発表する声が小さく、全体に伝わらないことが多い。 ●自分の考えたことや気持ちをノートに書くことはできるが、みんなの前で発表することを苦手と感じる児童がいる。	・相手に伝える、という意識をもち発表させた。 ・少人数での発表形式を取り入れ、自分の考えに自信をもたせてからクラス全体に発表させた。	・ノートを作るときにレイアウトを意識し、行間をあげて後から追記できるように指導する。 ・本時のめあてを明示し(一小スタンダード)児童が学習内容をしっかりと理解できるようにする。
社会	○歴史に興味がある児童が多く、学習した人物のことについて調べたり、読書したりしている。	・人物紹介や時代紹介新聞などで学習したことをまとめる活動を行った。	
	●調べ学習をする際、必要な資料を的確に見付けることができない児童がいる。	・タブレットPC等を活用し、いろいろな資料から調べられるようにした。	・何について知りたいのか、ということを具体的にイメージさせてから資料を読むようにさせた。
算数	○計算問題は最後まで意欲的に取り組める児童が多い。	・家庭学習で計算ドリルに取り組み、継続的に学習してきた。	
	●基礎的な力が付いていない児童がおり、既習事項が身に付いていない状況である。(特に分数の計算や単位当たり量)	・反復学習をさせてきたが、家庭で復習を促すような指導が十分でなかった。	・家庭と連携して、授業で知識を得、授業で練習し、家庭において復習したことを授業で生かす時間を作り出し、振り返りの時間を確保する。(一小スタンダード) ・基準量、比較量、割合を理解させる手だてとして日常生活の場面設定を基に問題を作成し児童に立式の意味を考えさせる。
理科	○実験に対して意欲的に取り組んでいる児童が多く、理科に興味をもつ児童が増えた。	・実験の方法を班で話し合う活動を取り入れることで、一人一人が考えをもち、実験できるように工夫した。	
	●自分の考えをノートに書くことはできるようになったが、みんなの前で発表するのが苦手な児童がいる。	・個人の考えからグループ内で確認させて、自信をもたせて全体に発表させた。	・身近な生活から、理科が使われていることを活用場面や導入場面で紹介し、理科を実生活に結びつけるようにした。
音楽	○楽曲のよさを感じ取り、どう表現したいか考えながら歌唱活動に取り組んでいる。 ○グループ活動に意欲的に取り組み、友達と協力して合奏をつくりあげようという意欲が感じられた。	・ワークシートを工夫し、曲を聴いて思ったことや感じたことを自分の言葉で表せるようにした。 ・グループの中での役割を明確にし、ひとりひとりに意欲をもたせるようにした。	
	●自分の思いがあっても、全体の場で発表したり、歌に表したりすることに消極的な児童が多い。	・ペア活動やグループ活動で、相手意識をもって表現することに取り組んだ。 ・一人一人の思いを書いて掲示するなどして、思いを全体に共有できるようにしている。	・学習活動、学習形態を工夫し、一人一人の思いを認め合い、安心して表現できるような環境をつくる。
図工	○課題に対して素直に考え、取り組もうとする児童が多い。	・児童が主体的に楽しんで取り組める課題を工夫した。	
	●自分なりに考え、表現を深めようとする力をさらに伸ばしていきたい。	・表現を深めていけるように、個別に課題を提起し、指導した。	・制作中のメモなどから、表現を深められるよう個別に指導する。
体育	○水泳の授業では、基礎泳法の定着に時間をかけ、ゆっくりきれいに泳げることを目的にすることができている。	・正しいフォームで泳ぐことによってより速く泳げるようになることを体感させた。	
	●技能面での二極化が課題である。苦手意識のある児童ははじめから課題に取り組む意欲が低い。	・めあてを設定し、それに向かって、友達と学び合いをしながら、達成できるよう指導した。	・スモールステップの練習の場を設定し、達成感を味わわせるような計画をたてるようにする。

家庭科	<p>○調理に必要な材料や手順を考えたり、自分なりに工夫したりすることができる。</p> <p>○調理実習に意欲的に取り組んでいる児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実習での手順や作業のポイントについて、各自が調べる時間とそれを全体で確認する時間を確保するようにした。 ・調理では役割を明確にし、全ての児童が活躍できるグループ活動を工夫した。 	
	<p>●問題解決的学習では、話し合いをより深めることが課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自分の考えをもつために机間指導において、励ましや助言をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自がまず一人で考えを深めるための学習プリントを工夫する。自分の考えをもった上でグループから全体交流へと発展させる。
外国語活動	<p>○様々な活動に意欲的に取り組んでいる児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスルームティーチャーも児童と一緒に活動に取り組み、英語に親しむ手本となった。 	
	<p>●自分の考えを英語で伝えることを苦手とする児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チャンツやアクティビティを多く取り入れ、英語に親しみやすい学習の流れを作った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を使って友達と関わる活動を多く取り入れる。 ・担任が積極的に英語を使い、間違いを恐れず英語を話してみることが大切だということを伝えていく。